

私たちが目指すもの

私たちは、北アルプスの自然の恵みと、その恩恵を受けた松本と高山に根づくこの地域を、一つの観光圏として捉えたときに、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光地経営によって、地域の価値が向上し、持続的な発展につながるものと考えます。観光産業をエンジンとして、この地域社会の持続性を高め、50年、100年先の未来のためのエコシステムの形成（＝高付加価値な観光地づくり）を目指します。



国宝 松本城

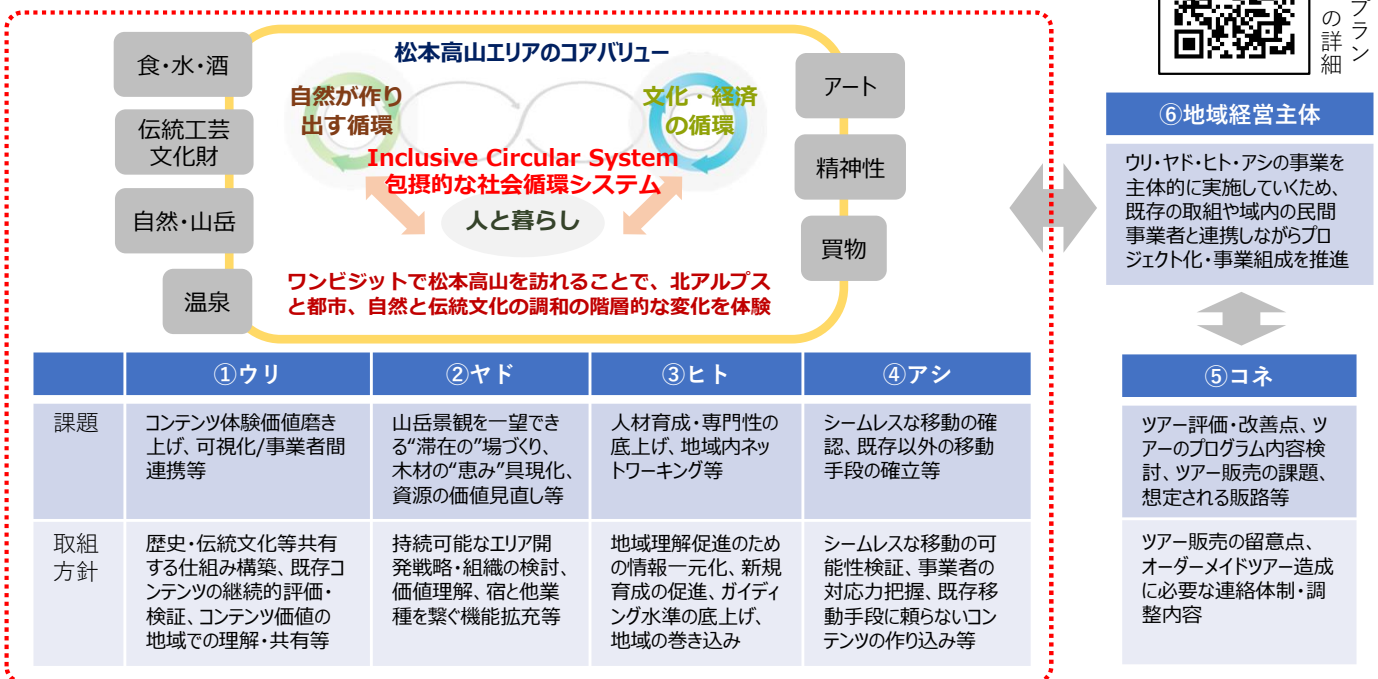
Topics 1

観光庁「地方における高付加価値なインバウンド観光地域づくり」事業における令和6年度事業実施計画を決定しました！

○ コアバリューを軸とした具体取組の推進 概要図 ※マスタープラン概要より



マスタープラン
(第一版)の詳細



○ 令和6年度実施計画の概要

上記①～⑥を推進するため、今年度は以下のプロジェクト（PJT）を実行します。

- ・ ストーリーツアー造成PJT：関連項目①～⑥
戦略素材を組み合わせた長期滞在型で高付加価値な地域のストーリーに基づくコースの造成、受け皿となるLOP機能整備、販路形成のためのツール作成、海外マーケットとのネットワークの構築等
- ・ ガイド人材育成 / 確保検討PJT：関連項目③
現状のガイディングステージの整理とプラットフォーム化の検討、育成計画と確保方策の検討
- ・ 移動検討PJT：関連項目④
高付加価値旅行者のニーズを満たす移動手段の実証による、実装のための受入体制の検討および利用者の満足度の調査
- ・ 松本/山岳/高山各エリアの滞在拠点PJT：関連項目②⑥
高付加価値な宿泊施設整備計画の策定、食を通じた滞在拠点の価値向上の取組等（山岳エリアにおいては特に環境省事業と連携）
- ・ 情報共有検討PJT：関連項目⑥
地域内事業者等への啓蒙活動、域内における情報プラットフォームの構築等

Topics 2

8月22日に松本エリア観光ブランディングシンポジウムを開催！

松本エリアにおける持続可能な観光地域づくり産業研究会主催、「松本エリア観光ブランディングシンポジウム」が8月22日ホテルブエナビスタで開催され、120名にご参加いただきました。

松本市のあるべき姿の策定・高付加価値旅行者へのコミュニケーションメッセージ策定の考え方の検討をおこなう1回目のシンポジウムとなります（全4回）。

1月に開催される第4回では、高付加価値層への松本エリアブランディングの方向性を発表いたします。

地域の先進事例紹介につづき、パネルディスカッションでは、清泉女子大学山本学長補佐が進行役となり、松本地域を拠点とするセイコーエプソン(株)、環境省、信州大学、全国の文化財で音声ガイドサービスを手掛けるON THE TRIP、扉ホールディングス(株)、宿泊、企業、大学、行政と幅広い分野の有識者が議論を深め、当研究会和田浩一顧問が総評、地域ブランディングの取組がスタートしました。



この人に聞く！

松本エリアにおける持続可能な観光地域づくり産業研究会委員長・扉ホールディングス(株)代表取締役 齊藤忠政

松本エリアにおける持続可能な観光地域づくり産業研究会は、観光業にとどまらない多様な業種の民間企業13社を中心とした産官学の組織です。当研究会では、地域の産業全体が高付加価値・高収益化を実現し、生産性を向上させ、地域のブランド価値が高まり、全ての事業者・住民に裨益するとともに、住民の地域への愛着度や幸福度も高まり、結果として、持続可能な地域社会が実現されていくことを目指しています。

まずは小さな成功体験を積み重ね、松本高山エリアに波及させていく。民間主導だから可能な平等性を突破するブランディングに特化したマーケティングを実施します。9月30日には「松本リノベーションまちづくり講演会」を松本市立博物館にて開催します。

Topics 3

岐阜県初！奥飛騨温泉郷に星野リゾート「界」がオープン！

星野リゾートが全国展開する温泉旅館ブランド「界」の24施設目となる「界 奥飛騨」が、2024年9月5日、岐阜県・奥飛騨温泉郷に開業しました。

界 奥飛騨のコンセプトは、「山岳温泉にめざめ、飛騨デザインに寛ぐ宿」です。山間の新鮮な空気や風を感じる温泉、飛騨地域の伝統と技術が輝く文化に触れ、ゆったりと過ごす滞在を提案しています。大浴場の温泉や客室の露天風呂はもちろん、中庭に流れる湯の川や離れに併設した足湯などへも出かけられ、温泉郷の魅力を思う存分楽しむことができる宿となります。

奥飛騨温泉郷の全体の認知を高め、全国から新たな顧客層を取り込めるように地域の方々とも連携しながら、この地域の魅力を発信してまいります（界 奥飛騨 支配人 須永隆介）。



インバウンド最前線

今回は松本市のインバウンドの概況をレポートします！

○観光庁の統計（宿泊旅行統計調査）によると、コロナ前の2019年と比較して、2023年の訪日外国人観光客（インバウンド）の延べ宿泊者数は約1.8%の伸びを示したものの、三大都市圏以外の地方部は約22%減少している。

○一方で松本市の観光統計によると、市内のインバウンドの宿泊者数は同年比で約24%の伸びとなっており、全国的に見ても近年の松本市のインバウンドの関心の高さが覗える（図1）。

○また、松本市の調査によると、特に日本人より外国人の方が消費が高く、インバウンド振興が地域経済へ与える影響が大きいことが示唆される（図2）。

○松本市のインバウンド施策としては、今年度はタイと台湾、来年度は豪州を加え、プロモーションに力を入れていくとしている。

国	2019年	2023年	比	
東アジア	韓国	4,292	6,044	141%
	中国	17,926	10,665	59%
	香港	17,623	14,030	80%
	台湾	24,781	23,105	93%
東南アジア	シンガポール	8,152	10,936	134%
	タイ	19,850	25,003	126%
	マレーシア	4,558	5,223	115%
	インドネシア	9,354	11,211	120%
	ベトナム	904	1,928	213%
南北アメリカ	フィリピン	1,022	1,602	157%
	インド	839	1,203	143%
	アメリカ	9,830	16,845	171%
	カナダ	2,079	2,896	139%
ヨーロッパ	メキシコ		276	#DIV/0!
	イギリス	9,281	9,068	98%
	ドイツ	4,760	7,102	149%
	フランス	7,024	7,978	114%
	ロシア	521	257	49%
	イタリア	1,384	1,449	105%
オセアニア	スペイン	1,607	2,041	127%
	オーストラリア	9,165	16,955	185%
中東	中東8カ国		2,814	#DIV/0!
その他（不明等）	33,007	54,149	164%	
合計	187,959	232,780	124%	

図1) 松本市観光統計（松本市外国人宿泊者数）より引用、加工して作成

○日本人、外国人ともに「宿泊あり」の方が「日帰り」より消費が多く、外国人の方が各項目の消費金額が高い。

○外国人は「飲食代」「アクティビティ代」において、「宿泊あり」と「日帰り」の差が少ない。

○合計消費額（②+③+④+⑤）は下記の通り。

宿泊あり 日本人：30,653円 外国人：44,021円
日帰り 日本人：7,475円 外国人：16,502円

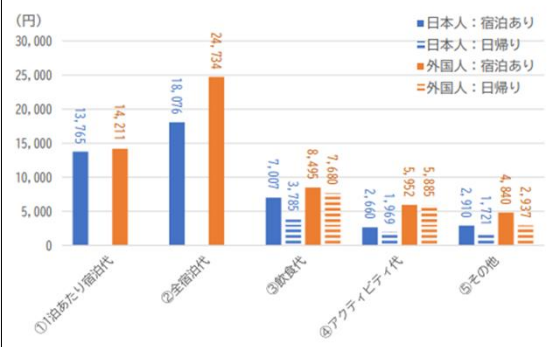


図2) 令和5年度松本市観光動向調査（概要版）より抜粋

To be continued：次号ではストーリーツアーPJT等の経過報告を紹介する予定です。

発行：高付加価値な観光地づくり推進協議会 運営部会

2024年9月